

# ONLY ONE ONLY ONE



特別号

平成29年5月29日 発行(No. 3)

桐蔭中学校 保健室

世界にひとつだけの あなたのこころ・からだ・いのち

## 命って素晴らしい！

先日、3年生を対象に行われた「いのちの授業」について紹介します。

本校は、健康教育の一環として、「心身の健康に関心を持ち、生涯を通じて、自らの健康を管理できる生徒の育成」を目指しています。

道徳や学級活動を通して、命の尊さについて深く考え、思春期の心と体の変化をよく理解し、望ましい人間関係を築く力を育めるよう、3年間で系統的に学習を進めていきたいと考えています。

5月23日(火)、桐蔭高等学校の英語科教諭である栗山友里先生に講師をお願いし、妊婦さんの気持ちや母になる喜び、子どもに対する思い、父になる思いなどについて、語っていただきました。

また、赤ちゃん抱っこ・妊婦体験も行いました。初め男子生徒は、あまり自分には関係ない話だという雰囲気でしたが、妊婦さんのお話やその旦那さんのお手紙を聞くなかで、男性として、親としての役割について、少しは理解することができたようです。

3年生のみなさんに、感想を書いてもらいましたが、初めて妊婦さんのお話を聞いたという生徒がほとんどで、どの生徒も驚きや気づき、また家族のつながり、これからの自分の生活のあり方などを考える良い機会になり、心に響いた授業になりました。



### ＝生徒の感想＝ (一部抜粋)



妊娠したら、ママはとても頑張ると思うけれど、パパは、赤ちゃん和妈妈を支える役割があることに気づかされました。将来、赤ちゃんができたら、ママだけに任せるのではなく、自分もできるかぎり尽くしてあげようと思います。妊娠は、一人ではなく、二人で成し遂げるものです。そういう妊娠の大事な意味について、よく理解できました。

また、赤ちゃん抱っこ体験では、抱っこする時に気をつけることを学んだので、今後、将来できるようにしたいです。(男子)

今日は、お話を聞いて改めて、「命を授かる」ということについて考えることができました。私は、赤ちゃんがお腹にいると知ったときは、ものすごく嬉しいものだと思っていましたが、先生は、喜びより不安の方が大きかったということを知って、この時こそ、命の尊さというものを実感するのだなと思いました。赤ちゃんが生まれるということは、奇跡に近いもので、私が今ここにいるということも、その奇跡であること、本当に命を大切にしようと感じました。私は、命を授かるということがどういうものなのか、まだわかりませんが、もし将来そういう奇跡を起こすことができれば、大事に育てたいなと思います。(女子)

お母さんは、苦しい思いをして、僕を産んでくれたことに感動と感謝を感じる。妊婦体験をしたが、立っているだけでしんどく、ものを拾うことさえままならなかった。大変さが身にしみた。(男子)



妊娠というのは、ただただ嬉しいだけではないということを知りました。新しい命が自分の中にいるという責任や辛さがあると思います。生活上での不自由などもあって、周りがサポートするのは、とても大切なことだと思います。

私も電車などで妊婦さんを見かけたら、お手伝いをしてみたいです。また、自分の母が、こんな思いをして育ててくれたのかと思うと、自分の命の重みが伝わります。両親からもらった身体・命を大切にします。(女子)

妊娠、出産というものは、人によっての色々だが、精神的にも肉体的にもたいへんなことだらけだと知った。でも、赤ちゃんが生まれてくるときの喜びは、大変なことを上回るくらい、大きいのだということもわかった。妊娠中は、動くのも大変だし、出産して、赤ちゃんを抱くときも重くて、首がすわっていないため、抱くのが不安になってしまうが、私もいつか、子どもを持つてみたいと思った。(女子)

今は、奥さんだけでなく、夫と一緒に子育てをすることが大事なのは知っていたけれど、心のケアや周りのサポートも大事だということは知らなかった。

妊娠という出来事は、本当に素晴らしくて輝きに満ちたものなのだと思う。自分にも赤ちゃんができたらと考え、きっと泣けてしまうだろうなあ(男子)

本当に元気な赤ちゃんが生まれることを、心から願っています。本当にありがとうございました。